

ビワ(枇杷)のカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	目的	資材と施用法				
(5月後半～ 6月前半) 収穫後期～ 直後 礼肥 (夏肥)	根張りと樹勢の 回復 (遅れるとチッソ 過多になりやす い)	①まず、 濃縮酵素液 2リットル 灌水か、500倍 葉面散布… 根の回復 ②その7日後、根が動いているのを確認してから、同時散布 <table style="border: none;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td>硫安 40kg (チッソ成分 8kg)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>畑のカルシウム 30kg</td> </tr> </table> <p>※樹・新梢を作り、花芽の体質を決める時期ですから カルシウム充分に もし暴れ気味になったら、カルテックCa液状 500倍 葉面散布</p>	{	硫安 40kg (チッソ成分 8kg)		畑のカルシウム 30kg
{	硫安 40kg (チッソ成分 8kg)					
	畑のカルシウム 30kg					
(8月下旬～ 9月上旬) 元肥 (秋肥)	7～8月に(形態 的)花芽分化、 8月半ばに根が 止まる、 …そうしたら、 すぐに(8月下旬) 剪定、元肥 1年分の基本とな る地力作りと、 根を動かす栄養	ラクトパチルス 600グラム …排水よく、深層まで肥沃な土、地温上昇 有機物・堆厩肥 (牛糞など) 1トン (または 米ヌカ 150kg 以上) 硫安 60kg (～80kg) [20年生、10アール30本基準] ※特に痩せ地で、堆厩肥・有機物が不十分な場合、 硫酸カリ 20kg 追加。 ※複合有機肥料なら N:12～16kg。(あまりPが多くない方がよい) 畑のカルシウム 40kg (30kg～80kg) ※深層の土壤酸性を中和するのは この時期に。(蕾の栄養) ※上記4種を同時に施して、耕します(土と軽く混ぜます)。 施肥位置は 樹の近くだけでなく、枝先から遠くまで広く散布します。 ※ 地力作りをここでやりますが、9月から秋根が伸びる時には土が安定していること(EC:0.1～0.2)、根の力が強く、9～10月の花蕾形成が順調に進むことが大事です。 …10月末 摘房・摘花				
(11月中旬～ 2月下旬) 開花期	低温期の開花な ので、液で樹体を 強化。 (樹勢調節)	秋口(10月末、摘房直後)から 500倍で葉面散布か、2リットル灌水しておく、低温でも花粉が発芽し、開花・着果がよく、寒害に強くなります。 (冬季にも有効) 下記3種 どれでも 効果的です(複数散布なら7日間隔) 濃縮酵素液 ……根を強く働かせて、花を強めます アミノ酸液 ……樹の体液(糖分)を濃くして、花を強めます カルテックCa液状 ……カルシウムで細胞を強くし、開花・結果促進				
(2月～3月) 幼果期	(2月中下旬) 春肥 <u>2月に春根が動く(根がツヤめく)時期に遅れずに①を、その後②を施肥します。</u> 3月には果実の伸びはごく遅いものの、果実・葉芽ともに内部でしっかりと生長の準備をしています。	① <u>なるべく濃縮酵素液</u> 2リットルを希釈した物を灌水 ……果実の初期肥大、春根を強くする(特にモンパが心配な園) ② (その7日～15日後) 下記2種を同時に散布 <table style="border: none;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td>硫安 30kg (チッソ成分 6kg)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>畑のカルシウム 20kg (～60kg)</td> </tr> </table> <p>※3月以降、5月までの時期に、土が酸性になっていると 果実の肥大が非常に悪くなることを しばしば経験します。土壌pH:5.3以上、根のpH:4.8以下、差:0.5以上が必要で、ビワ園はほとんど斜面ですから、春に肥料分が効いて来る頃は 急に土が酸性化しやすい。實際上、土壌pH:6.3(最低限5.8以上)を維持していないと不安です。 春肥時に土のpHを安全圏内としておくこと。更に4月中旬に土のpHを調べて 酸性化していたら すぐに畑のカルシウムを施すこと。(ただし、カルシウムを多く施す場合 必ずその1/3程の硫安も同時に施す。) (土のpHと根の力が果実肥大に直接大きく影響するのは ナシ、リンゴとともに、ビワのように花床が肥大する果実の特徴のようです。) ※3月には摘果、虫害防除、袋かけ</p>	{	硫安 30kg (チッソ成分 6kg)		畑のカルシウム 20kg (～60kg)
{	硫安 30kg (チッソ成分 6kg)					
	畑のカルシウム 20kg (～60kg)					
(4月) 果実肥大期	4月上旬以降、 急激に果実肥大	基本的には肥料は不要。状態を見ながら、液で調節します。 肥大促進には…… 濃縮酵素液 2リットル灌水か、葉面散布、 (特にモンパが心配な園) 果実の充実・品質向上には…… カルテックCa液状 500倍 葉面散布				
(5月)	予めカルシウム	4月下旬～5月上旬に一度、 カルテックCa液状 500倍 葉面散布				

成熟・収穫期	を効かせ、根を強く	…果実を重く充実させ、指の跡形がアザにならない硬さ、保存性向上
--------	-----------	---------------------------------

品種：茂木（樹は直立、果実は長卵形40g、多汁）、長崎早生、田中（樹は開帳、果実は短卵形70g、酸味有り）

【土壌病害の対策】白紋羽病…軽い場合は 随時、濃縮酵素液をタップリと灌水。重症なら根を掘って濃縮酵素液（1本当り）1リットルを100倍に薄めて灌注し、根を洗います。3～4日後、ラクトバチルス30gを米ヌカ7kgに混ぜて散布し、覆土します。その後、7日ごとに2回、濃縮酵素液300倍の灌注をして下さい。

ガンシュ病…土壌pHが5.5以下（特に5.0以下）の園、また、根が弱くN・P過剰な園で頻発します。畑のカルシウムと酵素液で3年続ければほとんど出なくなる園が多い。（もし発病したら殺菌剤を使います。）